**2014年　第66回　全日本総合選手権大会東京都予選会**

**初 優 勝**

**関東最終予選出場**

2014年 全日本総合・選手権大会東京都予選会において、本学は、強豪 日本体育大学・東京女子体育大学を破り、初優勝しました。

日本では最高の権威ある、レベルの高い大会の東京都予選は5月17・18日の2日間にわたり、福生市営球場において10チームが参加して開催されました。

　本学は、2回戦からの出場でした。1戦目・東京アスリートクラブには、7対０で6回コールド勝ち。準決勝の日体大戦では初回、本学が敵失のミスに付け込み、5点を挙げ、日体大の反撃を3点に抑え、決勝に進出しました。決勝の東女体大戦では、本学が1点を先取したが、3回に逆転を許し、更に本学が4回に同点、6回に逆転して有利の展開で迎えた最終回、東女体大は3ランホーマー（本塁打）で同点においつかせる手に汗握る展開に。8回からタイブレーカー（7回終了時で同点の場合、無死二塁から試合再開）に入りましたが、ここで本学は、底力を発揮し吉田のタイムリーで貴重な得点を挙げ、粘る東女体大との激戦に勝ち、初優勝を飾りました。同時に関東最終予選会の出場権を獲得しました。

**試　　合　　結　　果　　寸　　評**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 5月17日（土）　　　於：福生市営球場 |  |  |  |  |
| **2回戦**　　東京アスリートクラブ |  |  |  |  |  |  |
|  | 細井、江渡、小林が完封リレー、6回コールド勝ち |
| 　 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計 |  |  |  |
| 東京アスリートクラブ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |  | (東)神永－井上 |
| 東京富士大学 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | ３X | ７X |  | (富)細井、江渡、小林－深沢 |
|  | ２：長谷川（富） |  |  |  |

後攻の本学は、1回 四死球で、吉田･荻野が出塁。4番･田口美がタイムリーを放ち2点先取。5回も、吉田･荻野･田口美のヒットで2点追加。6回は、四死球で田口秀･児島が出塁、吉田･長谷川･荻野の3連打で4点を加え、大会規定により、6回コールドゲームで準決勝に進出した。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 5月18日（日）　　　於：福生市営球場 |  |  |  |  |
| **準決勝**　　日本体育大学 |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 初回、田口美の先制2ラン含む5得点の猛攻で決勝進出 |
| 　 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 計 |  |  |
| 東京富士大学 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 7 |  | (富)江渡－深沢 |
| 日本体育大学 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 |  | (日)山田、大村－澤井 |
|  | 本：田口美(富)、宇野(日)　３：麓(富)、田村(日)　２：深沢(富)、澤井(日) |

先攻の本学が、初回 2死無走者から、日体大3塁手のゴロミスを足場に、田口美の先制2ラン、麓の3塁打などで、一挙5点を取る。一方、日体大は3回 8番の3塁打を9番の犠飛で1点。さらに、4回 四球の走者を置いて、4番が2ランで追い上げるが、6回 本学は、ヒットの吉田、四球の田口美の代走 小川原を、5番･深沢がライトオーバー2塁打で駄目押しの2点を追加する。5回以降、日体大に毎回出塁されるが、江渡がピンチを切り抜け、初の決勝戦に進出する。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **決勝**　　東京女子体育大学 |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 追いつ追われつシーソーゲームも8回、本学が決勝点で初優勝 |
| 　 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 計 |  |  |
| 東京富士大学 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 6 |  | (富)細井、江渡、細井(再)-深沢  |
| 東京女子体育大学 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 5 |  | (東)秋元-本山 |
|  | 本：山本、山根(東) |  |  |  |

初の決勝進出の本学は、初回、東女体大のミスで先取点。しかし、東女体大は、3回 4番が2ランホーマーで逆転する。本学は4回、四球出塁 荻野を、6番･黒澤がセンター前ヒットして同点。6回は、四球の黒澤を、9番･児島のレフト前ヒットで逆転。さらに、7回はヒットの長谷川･死球の深沢(代走 君塚)を、2･3塁に置いて、麓のヒットで2者が還り、3点差になった。粘る東女体大は四球･ヒットの走者を置いて、3番打者が、3ランホーマーを放ち、土壇場で同点に追いつき、タイブレーカーに入った。本学は8回、田口秀を3塁に置いて、1番･吉田のヒットで貴重な得点。追いすがる東女体大も、その裏、走者3塁で攻めつけるが、最後の打者がショートライナーに倒れ、本学は、この大会、初優勝すると同時に、初の関東地区予選の出場権を得た。